

ワーカーズコープ「エコテック」が目指すもの(2)

都 筑 建 (東京都/株)エコテック・代表

エコテックで開発・製造・販売しようとしているものは次の4つに分けられる。

1、環境対応機器

環境対応といっても幅が広い。大気や水質や土壌など、人間だけでなく、地球上の生物が共生してゆくのに必要な条件を作り出したり、保全したりするものを指す。資本主義であれ「社会主義」であれ、大量生産・大量消費のシステムが生み出すモノによって破壊、汚染される状態を少しでもおし止めたり、回避させるのに有効な製品・道具である。現在エコテックで開発製造しているのは「せっけん製造機」ザイフェE及びエコサボンミニと試作から量産開発に進んでいるドラム式洗濯機「エコドラム」がある。さらに、大気汚染測定器の「エコアナライザー」もある。

2、福祉機器

直接的には障害者の日常生活をサポートする道具やシステムを指す。しかし、これからますます高齢化社会に入ってゆくと、福祉機器といっても特殊な、少数の者を対象にしたものでなく、より一般的な生活の道具やその補助具に拡大して捉える必要がある。ハンディーを負った者の自立を促すものといった方がより適切だろう。エコテックでは音声体温計の企画・技術検討を行っている。

3、エネルギー対応機器

環境機器と重複する部分も多いが、太陽光や風力などのソフトエネルギーを使用する機器を指す。現在の巨大な中央集権的なエネルギー発生・供給システムから分散型のものにしなければ、チェルノブイリのような自滅の道は避けられない。エコテックでは系統連継の太陽光発電や風力発電などのシステム開発がある。

4、協同システム

人間が社会生活を営むに必要な協同のシステムがある。生活の道具の材料を作り出すには、種々

の生産システムがいる。どんなに分散型でも、流通システムもいる。さらに生産・流通・消費・廃棄の一方だけ流しからリサイクルさせるシステムやその道具も重要なことになる。又、教育や文化の領域においても求められる道具がある。

エコテックでは家庭ゴミ再資源化器の「エコセトル」もこの中の一つである。

これら4つに大まかに分類できるが、この基本になるのは、参加型の労働者生産協同組合で開発・製造・販売しようとするところにある。それはとりもなおさず製品作りの労働過程を作り出す、自分達のものにする、あるいは取り戻すことを意味している。具体的な製品を紹介する前に、それらのものを販売・保守(メンテナンス)・運送及び資金調達するエコネットを発足させた。

対抗型生産様式を考えるとすれば、それは参加型の協同方式だろう。

資本が自己増殖する為に、製品を作るとすれば参加型は弊害になる。売れてもうかる商品であろうとすると、その製品が環境や福祉などにどう配慮されるかは二の次になってしまう。今でこそ、環境などはブームだから、さかんに取り上げているが本質が、資本の再生産にのみあるとすれば行く末は見えている。

対抗型生産様式といっても、当分は、それ単独で大勢を占めることはできないし、そうしようとしても無理がある。現在の生産様式の中にあるノウハウや成り立ちは充分に見習う必要があるというよりも、我々も一緒に作り出して来た基重な財産なのだから継承してゆかねばならない。

対抗型生産様式が発展して初めて、資本主義の市場経済の中の生産様式も変化をしてゆき、その変化があって又、対抗型生産方式も充実してゆくという関係にある。

参加型がキーワードになるのは、生産される製

品の価格や材質や形状や重量や仕様を決めるのに製品を作る側だけでなく、それを運ぶ者も販売する者も又、使用する者も、さらに廃棄処理、再資源化する者も、あるいは行政的調整をする者など広範囲の人々の参加があればある程、製品の本当の価値が生まれて来る。

たとえば、環境の点から考えれば、洗濯機の外装はステンレスなどの再生可能なものになるが、価格の点からするとプラスチックよりも数倍する。重さも倍以上になってしまう。今の生産方式(資本の)は当然、売りやすいことから安い、軽いが優先してしまう。対抗的生産方式は高い、重いが良いかとなると現実にはノーとなる。地球の危機状況を充分理解しつつ、どこまで、自分たちの生活を変えられるかの検討はギリギリのところまでやらねばならない。参加型が求められるのは現実の製造能力の中で適正な仕様を決めようとするにあり、その参加することによって生産を保障してゆくことになる点である。

この参加は生産の仕様を決めるだけでなく、販売や保守や資金調達を通した参加もある。その仕組がエコネットである。

元々、エコネットはドラム式洗濯機の保守のネットワークを作ろうとして発想したが、保守というジャンルはモノ作りにおいては非常に大事なところでユーザーの信頼を得る要であり、事業体への評価を大きく左右する。販売と密接につながっている。さらに参加型のモノ作りには技術や製造だけでなく、保守でも販売でも配送でも各人が得意とする面で参加をし合うことも重要になる。そして忘れてならない点で資金調達がある。これがないことには全てが始まらない。これらの全てが整って初めてモノ作りができる。参加の有様は色々あって良いと思う。ワーカーズコープ(コレクティブ)を作ったの参加や、自然食品店としての参加も可能である。もちろん個人の自営業でも、こと環境と協同に賛意を示し、エコテックで生産される製品がそれらに貢献することを納得し、普及に参加することが自分達のこととして取組めるのであれば良い。ただし、勝手気儘に参加では真

剣味が出ないし、長続きしない。エコネットへの入会金と契約金を出すことはケジメとして大事なことになる。エコネットの発足の時の呼びかけは「エコメイト募集の趣旨」となっている。

「環境対応型洗濯機エコドラムは、水と石けんの仕様が従来の為ですむ利点に加え、汚れを落とすことを重視した構造の洗濯機です。エコメイトは、使用する人にとって必要な道具として開発されたエコドラムの予約をされた会員のことです。

莫大な資本が必要とされる工業製品を市民の意志で造り上げるためには、私達が、Self SUPPORTING ECONOMY(自立経済)の仕組みを作ることです。自立経済の仕組みとは、必要とする人達が資金を出し合う事です。エコメイトは、普及にも、改良にも参加できる組織です。一般消費者より、もう一步積極的にエコドラム造りに参加できる組織です。リサイクル可能な暮らしを造り上げるには、資本の論理に対抗する市民の論理が不可欠です。資本を持ち寄ることがその一つですが、消費者と生産者の壁を取り除くことも有効な手段と考えます。市民の発案による、生活に必要な道具造りを成功させるために、普及と改良に参加する組織としてエコメイトを募ります。市民参加型の生産への道を辿ってエコドラムの普及をはかります。この事は、運動と事業の両立を図り、市民の仕事作りの場としても新しいモデルとなるはずです。」

エコメイトは資金調達での参加者である、「エコドラム」の販売予定価格の半分(5万円)を予約金として集めようとしている。もちろん資金調達はこれだけでなく、公的資金や、諸団体の協力に負う部分が多い。

エコドラムが諸般の事情により発売時期が遅れている為、エコドラム外の製品で、エコネットはスタートしている。

企画・開発及び評価のエコテックと販売・保守及び資金調達の広範な参加のエコネットの両輪で動いてゆくことになる。

次号では実際に開発・製造・販売しているものを紹介したい。